

～2022年度「先生のためのアウトリーチ」に参加して～

昭和音楽大学 小峰智子

文部科学省が定める教育課程の基準「学習指導要領」は、子供たちを取り巻く環境や社会のニーズなど時代の変化や踏まえ約10年ごとに改訂されており、これを受けて教科書などを含めて教育課程（カリキュラム）が変わります。小学校では新しい「学習指導要領」が移行期間を経て2020年度から全面実施となりました。この中には、「これまでの我が国の学校教育の実績や蓄積を活かし、子供たちが未来社会を切り拓くための資質・能力を一層確実に育成することを目指すこと。その際、子供たちに求められる資質・能力とは何かを社会と共有し、連携する「社会に開かれた教育課程」を重視すること」と記載されています。小学校がいかに社会と連携して、子供たちにとってさらに有意義な教育を施すことができるかという課題に積極的に取り組まねばならないと考えます。そのためには、教育の目的や目標を学校が情報発信して、社会と共有することも重要です。そして、社会と連携することが、学校全体の教育課程をも良い方向に変えていく可能性を秘めていると思います。

今回参加させていただいた「アウトリーチ」活動は、小学校音楽科教育の目標の達成を支援するばかりではなく、小学校教育全体の教育目標に向かう貴重な活動と位置付けることができると考えます。よって、音楽科教育だけではなく、学校全体の教育課程の中で、どのようなアウトリーチ活動を採用するかを検討することも必要でしょう。例えば「身の回りにあるものから音を探そう」という内容であれば、郷土や地域、地球環境に関する教育（現代的な諸課題に関する教科等横断的な教育内容）、あるいは「総合的な学習の時間」の中で扱う計画等も考えられます。そのためには、各学校でカリキュラム・マネジメントを担当する教員が、綿密な計画を立てて教育課程編成にあたる必要がありますが、アウトリーチ活動そのものが貴重な教育的価値のあるものですので、今後あらゆる学校種において実施されるべきであり、こうした教育活動が、芸術文化の振興と発展のための土壌を醸成することになると期待します。

「アウトリーチ」を成功させるためには、学校教員とアウトリーチ講師との事前の綿密な打合せが重要です。具体的には下記の内容ではないでしょうか。

- (1)実施校の年間指導計画を確認する。
- (2)年間指導計画の中の位置付けを確認する。(目的、内容が合致するか、等)
- (3)授業時間の指導(アウトリーチ)目標を定める。(明確に簡潔に)
- (4)児童生徒の現状を細かく知る。(音楽用語の理解度、等)
- (5)アウトリーチを実践する場所の環境について確認する。

そして、概要が決まった段階で、アウトリーチ講師(+教員)がシナリオ付きの学習指導案を作成することも一案です。学習指導案を資料としてまとめる中で、目標や方法が明確になっていくはずです。

今回「モデル授業型」で実施された、打楽器を使った小学校6年生対象のアウトリーチでは、アウトリーチ講師による生演奏で、グリーグ作曲の組曲「ペール・ギュント」を聴きました。この小学校音楽科の年間指導計画の中にこの楽曲の取り組みが入っており、生徒は5月ころからずっと練

習をしてきた楽曲です。子供たちが今取り組んでいる楽曲の生演奏を鑑賞する機会は大変貴重で、よい経験と勉強になったと感じます。

続いての授業では、①「拍」を感じることに、②脱力することに、③音色の個性を感じることに、の3点をポイントとして進められました。これも、音楽科年間指導計画の6月の題材名「いろいろな音色を感じ取ろう」、同9月の題材名「いろいろな和音のひびきを感じ取ろう」へと繋がる内容です。どのポイントも音楽には大切なものなので、聴講する教員にとってはとても有意義な内容でしたが、生徒にとっては1時間の授業での目標は一つ、あるいは多くても2つで十分であると考えます。その時間に最も心にとめてほしいものをピンポイントで発問し心にとどめてもらいたいと感じました。

しかし、縄で「拍」を感じさせるアイデアや、「自分が飛んで着地をする状態」で脱力を体感したことは、とてもわかりやすく、音楽を演奏する際の素敵なヒントになりました。さらに、「音をつむごう」という講師の方の情熱的な声かけのおかげで、「音楽は耳を澄ますことが大事で、自分のあわせようとする気持ちが大切なのだ」と子供たちはわかりました。「自分の音も友だちの音も、大切な音なのだ」ということを、身をもって知った貴重な体験であったと思います。主体的かつ協働的な音楽活動ができたと思います。

「アウトリーチ」活動は、「社会に開かれた教育課程」を作る原動力となり、次代を担う児童生徒たちの資質・能力を確実に育成するものであると思います。

今後ますます本事業が発展していかれることを期待しております。

以上

.....

#### [主な参考文献]

石田麻子：『芸術文化助成の考え方』、美学出版、2021年

TAN アウトリーチハンドブック制作委員会編：『アウトリーチハンドブック』、パンセ、2007年

文部科学省：『小学校学習指導要領 音楽編—平成29年7月』、2017年

文部科学省：『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校音楽』、東洋館出版社、2020年

文部科学省：『小学校学習指導要領 総則編—平成29年7月』、2017年

伊志嶺絵里子：『小学校における音楽アウトリーチの有用性について』、音楽芸術マネジメント第10号、2018年

田中耕治他：『新しい時代の教育課程第4版』、有斐閣アルマ、2019年

齊藤豊：『音楽の授業におけるアウトリーチ活動の展開』、音楽教育実践ジャーナル、2013年

林 睦：『音楽教育におけるアウトリーチを考える』、音楽教育実践ジャーナル、2013年